

# 道徳だより

どう  
Do 徳 ?  
どう 説く ?  
どう  
道 talk



テーマ：子どもが主体的に学ぶ発問を考える

令和6年11月  
京都市立道徳教育研究会  
広報部  
(第6号)

## 「考えさせたいこと」と「考えたいこと」

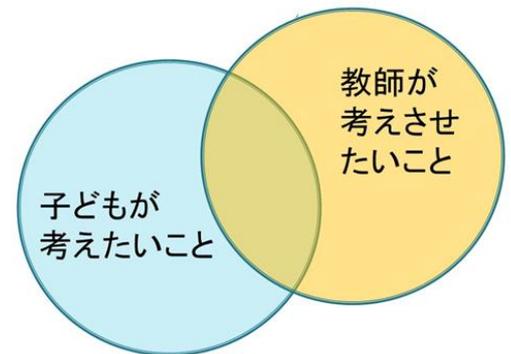
「その発問、本当に子どもが考えたいことですか。」

そう指導助言をいただき、ドキッとしたことがあります。自分が「こんなことを考えてほしい」という思いが強すぎて、子どもそっちのけの発問になっていたのだと思います。

指導者が考えさせたいことと、子どもが考えたいことを図示すると…(右図)。

子どもが考えたいことと教師が考えさせたいところの重なる部分で発問できることがやっぱり一番です。指導助言を受けた時の発問は、見事に外れていました…。

例えば、登場人物の心情を問うときに、子どもの考えたいことは、大人の登場人物より子どもの登場人物です。当たり前のことですが、身近なほうが考えやすいし、考えたいと思う子どもが多いでしょう。このようにわかりやすいものなら良いですが、そう簡単なものばかりでないので悩んでしまいます。



### 【考えたいことと考えさせたいことが合致したときに主体的で深い学びになる】

子どもが考えたいことは何だろうと考えるときに一番手っ取り早いのは何か…。

「そうだ！ 子どもに聞いてみよう!!」

と考えたのが、「心に残ったところはどこですか。」という発問を入れようと考えたきっかけです。

1. 授業前にあらかじめいくつかの発問を考えておく。
2. 子どもたちに「心に残ったところはどこですか。」と聞く。
3. 子どもの発表を聞いて、事前に考えた発問の中から子どもたちの興味の高いところに合う発問を選択して、子どもたちに問いかけていく。興味のないところの発問はしない。用意したのに残念ですが心にそっとしまっておきます。

こうすることで、与えられた発問で話し合うのではなく、自分たちの心にのこったことで話し合いが進むので、学びが少し主体的になります。そして、指導者が考えさせたいことも盛り込んでいくことができるので、子どもが考えたいことだけでなく、ねらいのある深い学びにつなげていくことができます。

### 考えたいことを探りながら…

①心に残ったところを聞いてから ⇒ 発問

心に残ったところはどこですか。

②話し合いたい場面をきいてから ⇒ 発問

みんなで話し合いたい場面はどこですか。

③テーマに沿った場面を聞いてから ⇒ 発問

テーマを深めていくために話し合ったらよいと思う場面はどこですか。

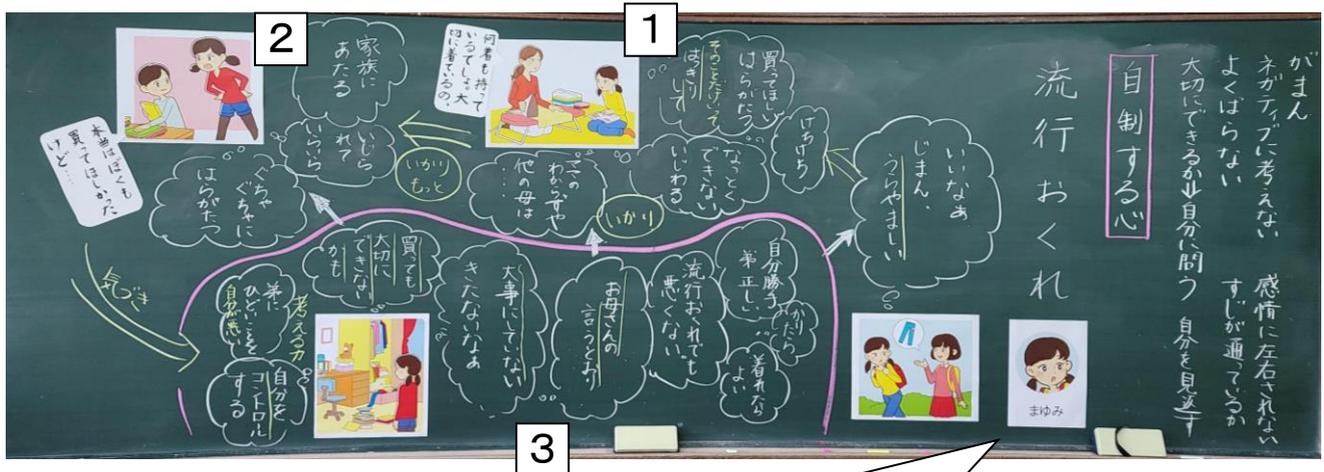
子どもが考えたいことは何か探りながら、実践してみました。

## 「この気持ちわかるわぁ」ってところ、どこですか？

子どもが少しでも主体的に考えることができるように、子どもの興味関心の高いところで授業を進めようと、子どもたちに考えたいところはどこかを聞いて、実践しました。

いきなり子どもたちに「どこを(何を)考えたいか」と聞いてもこたえにくいので、「この気持ちわかるわぁ。」というところを探してみてね」と伝えてから始めました。

### 【板書】5年『流行おくれ』渦巻き型板書



### 【簡単略案】

- 1 今流行っているものってありますか。
- 2 本文を読む。  
「わかるわというところを探して聞こう。」
- 3 共感したところを聞く  
・ほしいところ  
・買ってもらえなくて腹がたったところ  
・部屋を見渡しているところ
- 4 共感したところを詳しく聞いていく。
  - ①「友達を買ってもらおうときいて、わたしはどんなことを考えているでしょう。」
  - ②「あらあらしく自分の部屋にাগっていったとき、まゆみはどんな気持ちだったでしょう。」
  - ③「ぼくも買ってほしいと思っていたのに...ということばを聞いてまゆみはどんな気持ちになったでしょう。」
  - ④「自分の部屋を見渡すまゆみはどんなことを思っていたでしょう。」
- 5 自制する心について考えて、大事だと思ったことは何でしょう。今日の学習から思ったことを振り返って書きましょう。

**資料概略** まゆみが母親にたのむも新しい服を買ってもらえず、もやもやする。弟の言葉をきっかけに物にあふれる自分の部屋を見て、自分を振り返っていく。

**発問**「この気持ちわかるわと共感したところはどこでしたか。」

子どもたちから多く出てきたのは、買ってもらえなくて腹が立ったところの気持ちでした。(板書1のあたり)

同じような経験が自分にもあるようで、腹立たしさがたくさん出てきました。その後、弟に八つ当たりする気持ちが出てきました。(板書2)

子どもたちからたくさんの意見が出てきたので略案4①～③の発問はする必要がありませんでした。

一通り意見が出て、略案4④に関わる意見が出てきたときに④の発問をすることで「自制する心」についていろいろ考えることができました。(板書3)

【文責 山口 賢(京都教育大付属京都小中学校)】